

## 藤井 賢二

## 竹島不法占拠



ふじい・けんじ 日本安全保障戦略研究所研究員。島根県竹島問題研究顧問。島根県吉賀町出身。最新稿「平和条約と竹島—英連邦諸国の対応を中心に—」（内閣官房領土・主権対策企画調整室ウェブサイト）。

3年前、1950年代のラジオドラマ「人のいる無人島」の脚本が鳥取で見つかった。

「日本人が日本の領土に上がれないとは」と慨嘆し、竹島へと向かう新聞記者・大島が主人公。銃撃の恐怖を感じながら竹島に迫ると、船に乗った「韓人」

が現れる。日本語を操る青年に日本による植民地支配の影を感じながら、敵意のない目を信じた大島は韓人の船で竹島に上陸する。アワビをもらった大島のつぶやきで脚本は締めくくられる。「人間の心ってほんと

は親密な態度を示した。5日ごとに来る「警備船のおる時は来ないがよい、危ない」と忠告し、「日本に連れて行け」と涙を浮かべて懇願する韓人もいた。この記事と写真は内閣官房領土・主権対策企画調整室のウェブサイトに掲載されている。

田賀記者の上陸との関係は不明だが、韓国は6月11日に海洋警察隊を急派した。8月10日には灯台を点灯させ、9月2日には海洋警察隊の常駐を決定した。8月23日には巡視船「おき」への銃撃、11月21日には巡

の警備船が独島に向かつて機関銃を300発あまり発砲し、国籍不明機が上空を旋回した（6月4日付「朝鮮日報」）。6月3日の衆議院外務委員会で中川融政（とく）府委員は「海上保安庁は、あくまでも正当防衛の場合以外には、そのような武器は使用しない」、そもそも巡視船には機関銃はまだ装備されていないと述べて風聞を否定した。

1954年10月28日、韓国政府は竹島問題の国際司法裁判所での解決を求める日本政府の訴えを拒絶した。この時「独島は日本の

## 問われる韓国政府の責任

は隔たりなんか無いんだ。ただ、それが国という名の垣とそして歪められた先入観とが、人間を支配し溝を深くしているんだ」

（2019年6月20日付本紙）。このようなあらずじである。

ドラマは実話に基づく。

1954年5月30日に鳥取県水産試験場試験船「だいせん」が竹島に接近し、一人上陸した日本新聞の田賀市郎記者は、ワカメを刈る男や、アワビやサザエを採る海女ら51人の韓国人の姿を5月31日付、6月3日付同紙で記事にした。彼ら

視船「へくら」「おき」への砲撃が起き、竹島不法占拠が強行されていた。

1954年5月には、3日に漁業権を持つ隠岐久見漁協が竹島で試験操業し、23日に巡視船「つがる」が、27日に島根県水産試験場試験船「島根丸」が接近して

いた。韓国の新聞では次のような報道があった。5月24日に北海道方面から飛来した国籍不明機が独島（竹島の韓国名）の韓国の領土標識に300発の機銃掃射をして下関方面に飛び去った（6月2、11日付「東亜日報」）。5月25日に日本

侵略の犠牲となった最初の朝鮮の地」という、現在韓国がことあるごとに叫ぶ主張が公的に発せられた。1905年の竹島編入より前に朝鮮半島にあった政府が竹島を管理していた証拠はなく、この主張は誤りである。

韓国民にそのような「歪められた先入観」を植え付け、また、日韓の「溝を深く」させる新聞報道を放置したのは韓国政府だった。韓国民がこの事実を直視せざるをえなくなること、それが、竹島問題解決の道の第一歩である。